

夏休み
企画

美術館で旅行!—東海道からパリまで—

やま たね び じゅつ かん
山種美術館

に来た日 年 月 日

鑑賞ワークシート

な ま え
名前

海だ! 山だ! 夏はたくさんの人が旅を楽しむ季節。この展覧会では、「旅」をテーマとした日本や外国、さまざまな場所を描いた作品が見られるよ。ワークシートを使って、美術館で旅を楽しもう!

ワークシートの使い方

- このワークシートには、Q1～Q10までのクイズがあるよ。
 - 記入欄が (ピンク色) のクイズは最後のページに答えがあるよ。
 - ミニ解説「旅の心得①～⑧」は、鑑賞のヒントだよ。
 - 各クイズの右上にある記入欄に県名や国名を書き込んで、ワークシートを完成させよう! 作品の題名が書いてあるパネルにヒントがあるよ。
- (例) 神奈川県 (県名) フランス (国名)

おとなの方へ

この鑑賞ワークシートは、小中学生のお子様のために作られています。それより小さなお子様をお連れの方は、ワークシートや作品横の解説をヒントにお子様とお話しをしながらご鑑賞ください。

美術館での
やくそく



作品にさわらない。



お話は小さな声で。



館内を走らない。



展示室では、飲まない、食べない。



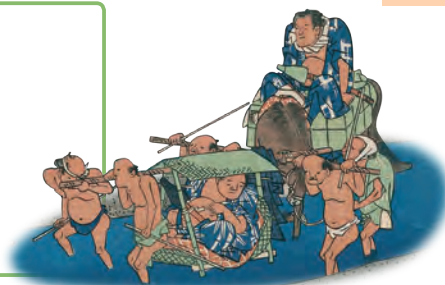
メモは鉛筆を使う。

Q1 江戸時代の乗り物を探してみよう!

車や飛行機がなかった江戸時代の人々は、旅をする時どうやって移動していたのかな? 《東海道五拾三次》の作品の中から、江戸時代の人たちが使っていた乗り物を探してみよう。あなたはどれに乗ってみたい?

乗り物を見つけたのはNo. の作品。

乗り物の特徴 (形や乗り方を書いてね)



どうして乗ってみたいと思ったのかな?



図版

歌川広重(初代)《東海道五拾三次》

左: No. 19「興津・興津川」(部分) 前期展示

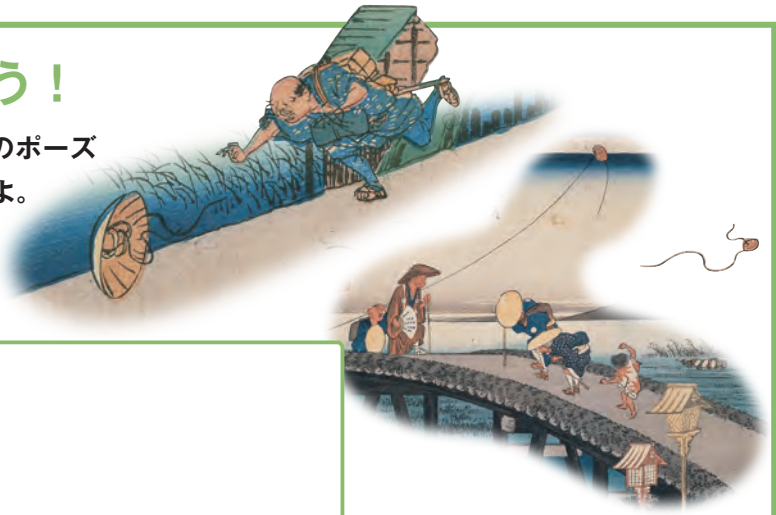
右: No. 42「鳴海・名物有松絞」(部分) 後期展示

Q2 「風」の表現を見つけよう！

《東海道五拾三次》の作者・歌川広重さんは、人のポーズや物の動きに特徴をつけて「風」を表現しているよ。

「風」を感じるのはNo. の作品。

広重さんはどうやって「風」を描いているかな？



図版

歌川広重(初代)《東海道五拾三次》

左: No.45「四日市・三重川」(部分)後期展示

右: No.28「掛川・秋葉山遠望」(部分)前期展示

Q3 ふしぎな風景。季節はいつ？

(県名)

No.66 野口小蓬《箱根真景図》1907(明治40)年



左隻



右隻

大きな画面いっぱいにきれいな風景が広がっているね。
作品の右側と左側をよーく見くらべてみてごらん。
あれれ？ちがう季節が描かれているみたいだよ。

描かれた季節はいつだろう？ 右隻の季節は 。左隻の季節は 。

その理由は？

旅の心得② 真景図

実在する場所を描いた絵。写真がなかったころ、江戸時代の日本の画家が使っていた呼び方だよ。この屏風にも芦ノ湖や箱根駒ヶ岳など現実にある湖や山が見えるよ。

旅の心得③ 屏風

もともとは防風や間仕切り用の折りたたみ式の家具。2つで1組になっていることが多いよ。右側を「右隻」、左側を「左隻」といい、2つあわせて「一雙」と呼ぶよ。画家にすてきな絵を描いてもらって、家具としてだけでなく鑑賞する楽しみも備えていたすぐれものなんだ。

Q4 どこから見た景色？

(県名)

No.84 麻田鷹司《天の橋立》1971(昭和46)年



海の中央に細長い砂地。雪がたくさん積もっているよ。
とても高いところからの眺めだね。

この絵はいったいどこから見た景色かな？

画家は、 から見て描いた。

どうしてそう思ったか教えて！

旅の心得④ 名所

美しい景色や和歌・物語に登場する有名な場所は、「名所」と呼ばれてたくさんの画家たちに描かれてきたんだよ。「天の橋立」もその一つ。この展覧会の中で見つけた名所を書き出してみよう。

Q5 まるで映画みたい! 長〜い絵巻。

(国名)

No.98 横山大観《楚水の巻》(部分) 1910(明治43)年



後期展示

前期展示

横山大観さんが実際に訪れた中国旅行の体験をもとに、アジア最長の川・長江（揚子江）の風景を描いた作品だよ。

何が描かれているかな？書き出してみよう。

この絵巻に描かれた場所、季節、天候など特徴を教えて！

場所	季節	天候

旅の心得⑤ 絵巻

絵巻は横長の画面に絵や文章を入れた巻物形式の作品。右から左へと見ていこう。《楚水の巻》は、ぜんぶ広げるとなんと14mの長さ。でも、くるくる巻くことができるからコンパクトに片付けられるよ。墨だけで描かれているけど、朝から夕方までの時間の流れや、気候の変化が伝わってくるね。場面の移り変わりにも注目してみよう。



Q6 技法に注目！

No.94 横山操《アメリカ五題のうち マンハッタン》1961(昭和36)年



©Motoko Yokoyama 2012/JAA1200076

高くて頑丈そうなビルが並んでいるね。
実はこの作品、ある金属を使って描かれているよ。

何の金属だろう？

金属の種類は と 。

展示室には、他にも金属を使って描かれた作品があるよ。
探してみよう。

No.

Q7 はたらく人々の様子

No.102 速水御舟《埃及土人ノ灌漑》1931(昭和6)年



(国名)

旅の心得⑥ 灌漑

灌漑は人工的に畑に水を引き入れて、土地をうるおすこと。エジプトではナイル川の水をたくさん使えたので、畑には豊富な作物が育ったんだよ。古代文明など長い歴史について考えながらそれぞれの土地を旅行するのも楽しいよね。

水を汲んでいる人物2人は同じようなポーズをしているね。この絵は、ほぼ左右対称に描かれているみたいだ。

似ているところと違うところを、それぞれ書き出してみよう！描かれている物の色や形、数に注目してね。

似ているところ：

違うところ：

Q8 色のひみつを知らう！

No.105

加倉井和夫《ミコノスの磴》1978(昭和53)年



この作品の白い部分は、「胡粉」という日本画によく使われる材料で描かれているよ。

胡粉は何から作られた材料かな？

貝殻

絹糸

卵の殻

(正しい答えに○をつけてね)

No.114 児玉希望《モンブラン》1957(昭和32)年



栗のケーキ(モンブラン)の名前もこの山にちなんだもの。書道でも使われるで描かれていて、No.105の作品とは違う方法で白い色を表わしているよ。

どうやって白を表現しているのかな？

(国名)

(国名)

Q9 パリの日常を描く

(国名)

No.110 結城素明

《巴里風俗のうち サンタル門外所見》1925(大正14)年



結城素明さんが見たパリの街のようすが伝わってくるね。路上の人たちが何か会話をしているよ。この女の人や子どもたちのお話を考えて物語を作ってみよう。

No.106 結城素明《巴里風俗のうち ルーブル美術館》1925(大正14)年



旅の心得⑦ 美術館

ここは世界的に有名な美術館。昔の王室のコレクションがはじまりで、膨大な数の作品が所蔵されているんだよ！ 普段展示されている作品だけでも2万6千点。1つの作品を1分ずつ鑑賞したとしても全部見るにはなんと、18日間もかかるんだ！

美術館

Q10 じっくり見てみると…？

No.112 佐伯祐三《レストラン(オ・レヴェイユ・マタン)》1927(昭和2)年



(国名)

この作品はこれまで見てきた日本画の絵具と違う材料を使っているよ。

次のうち、どの材料を使っているかな？

岩絵具

色鉛筆

油絵具

(正しい答えに○をつけてね)

旅の心得⑧ 絵具

日本画で使う絵具は、天然の鉱石(岩絵具)や貝殻などを砕いた粉末(胡粉)でできていて、ざらざら・きらきらした素材感が特徴。温度の変化や湿度、光に弱く扱うのがとても難しいんだ。一方、天然や人工の色の粉を油で溶いて練って作ったのが油絵具。つやがあってなめらか。色を混ぜたり、厚塗りも自由自在！

いよいよ旅も終わり…。作品を鑑賞しながら、いろいろな場所を旅することができたかな？ どの地域や国に行ってみたいと思ったかな？ 展示の中で、一番すてきだと思った作品を家族や友達に教えてあげよう。

一番気に入った作品は、

No. の (作品名を書いてね)

作者は さん

どんなところが気に入ったのか教えて！

クイズの答え No.114はフランク・アウグスト・クンツの「何れも色を渡らない」 No.110は結城素明の「サンタル門外所見」 No.106は結城素明の「ルーブル美術館」 No.112は佐伯祐三の「レストラン(オ・レヴェイユ・マタン)」 No.114はフランク・アウグスト・クンツの「何れも色を渡らない」 No.110は結城素明の「サンタル門外所見」 No.106は結城素明の「ルーブル美術館」 No.112は佐伯祐三の「レストラン(オ・レヴェイユ・マタン)」

美術館で旅めぐり、お疲れさまでした！

山種美術館
Yamatane Museum of Art